

欧州景気概況(2021年12月)

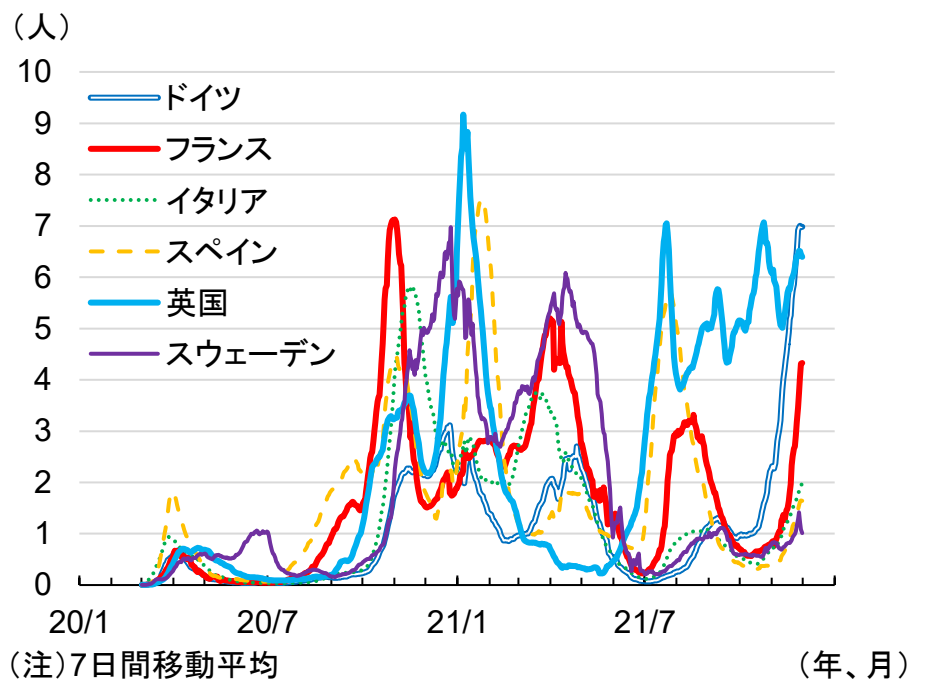
2021年12月2日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

新型コロナウイルスの新規感染者数は、大陸・英国ともに急増している。オーストリアが本格的な都市封鎖(ロックダウン)に踏み切るなど、各国とも行動制限を強化すると同時に、ワクチン接種の加速に取り組んでいる。また南アフリカ由来とされる新たな変異株(オミクロン株)の流行も懸念されている。

人口一人当たりの新規感染者数



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	公共交通機関の利用や出社に際して新たにワクチン接種証明書、回復証明書、陰性証明書の何れかの携帯・提示を義務化。各州の入院率に関して飲食店や宿泊施設、イベントに利用制限を段階的に課す。
フランス	現状、8月に義務化された衛生パス(pass sanitaire)の提示のみ。
イタリア	11月末時点でイエローゾーンにあるのはフリウリ＝ベネチア・ジュリア州のみ。12月15日から全土で医療・公職関係者のワクチン追加接種義務化。飲食宿泊施設やイベント会場などでのワクチンパスの義務化。
英国	イングランドで11月30日より公共の場でのマスク着用を義務化。

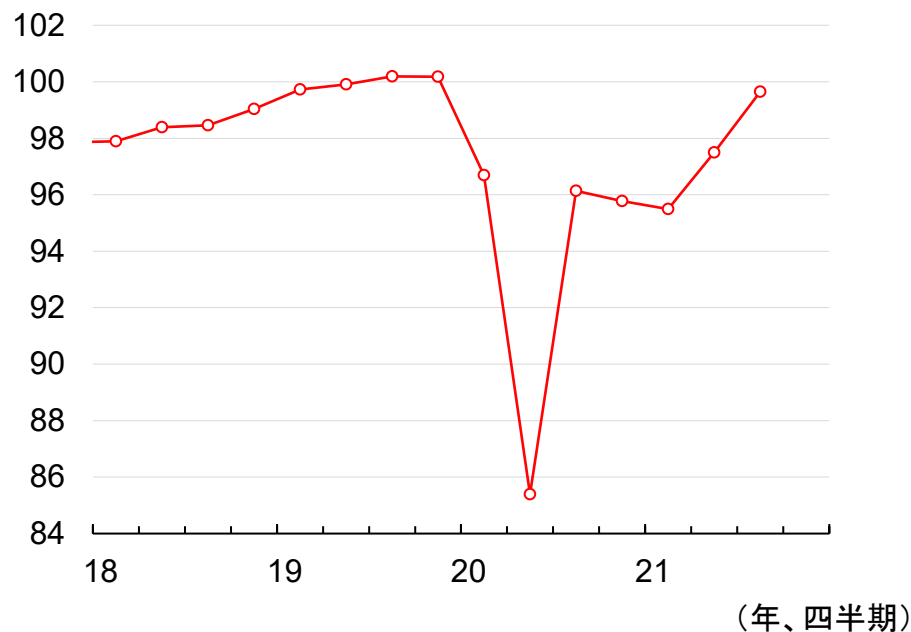
(出所) 各種報道

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年7-9月期の実質GDP(改定値)は前期比+2.2%と2四半期連続で増加、景気は回復している。フランス(1.3%→3.0%)とスペイン(1.1%→2.0%)が加速、イタリア(2.7%→2.6%)も堅調、ドイツは減速(2.0%→1.7%)。最新11月の景況感指数は117.5と8月以来の低下、均した動きは高位で横ばいとなっている。

実質GDP

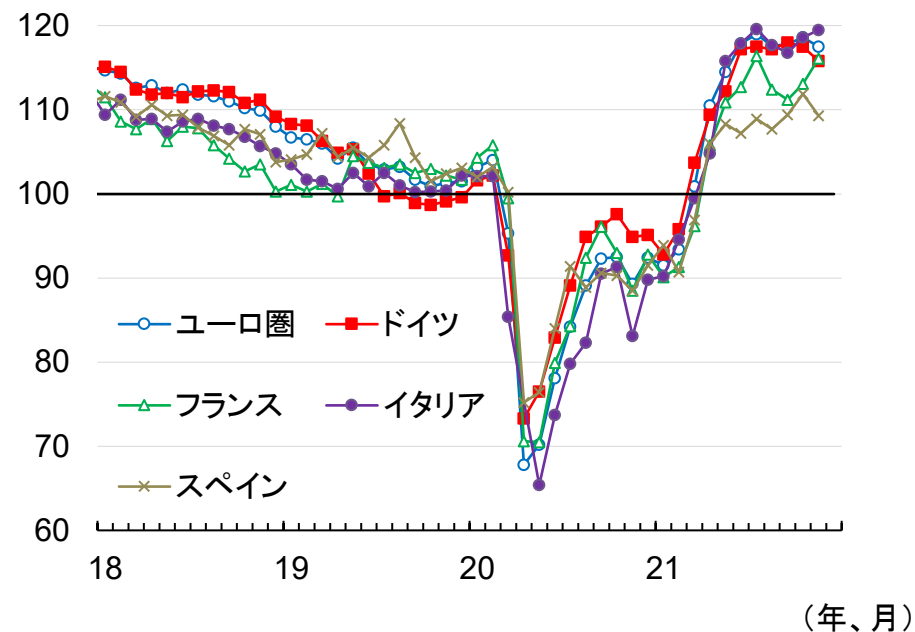
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

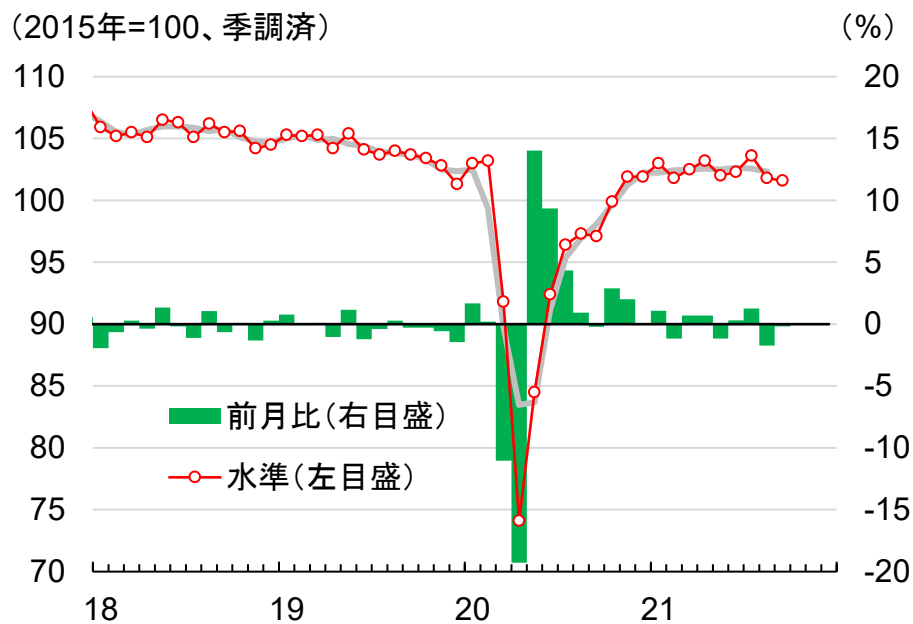


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は低迷

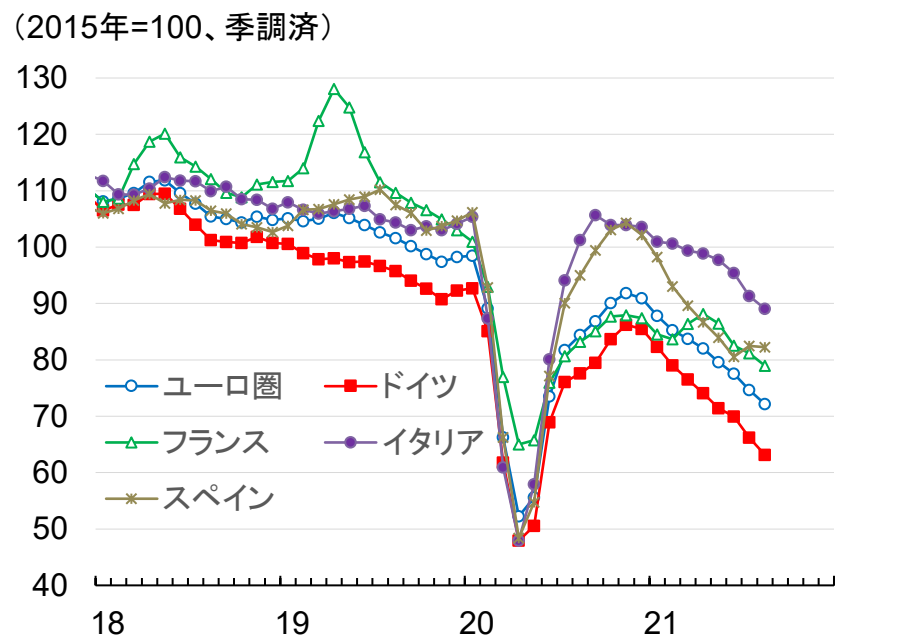
ユーロ圏の9月の鉱工業生産は前月比-0.2%と2ヶ月連続で減少、均した動きは下向きとなっている。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数が下振れしており、世界的な半導体不足の影響を受けた自動車の不調が生産全体の重荷となっていることが分かる。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は頭打ち

ユーロ圏の9月の小売数量は前月比-0.3%と再び減少、均した動きは頭打ち。インフレの加速が消費の下押し圧力になっている可能性がある。一方で10月の新車販売台数は前月比-3.1%の年率769万台と再び減少、供給不足は依然として深刻である。車種別にはEV(電気自動車)などの電動車が堅調である模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

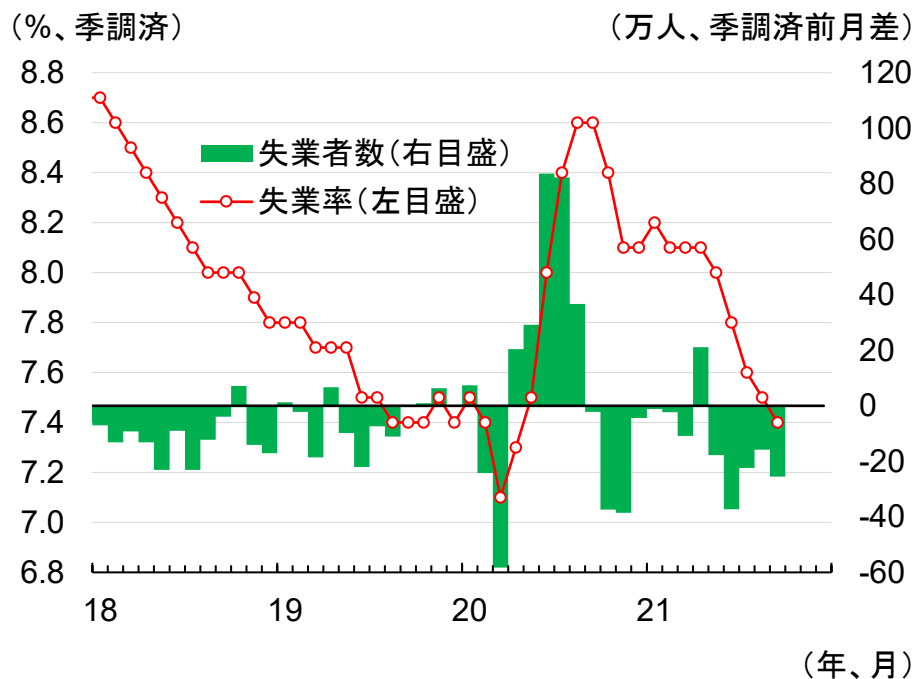


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行(ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は改善

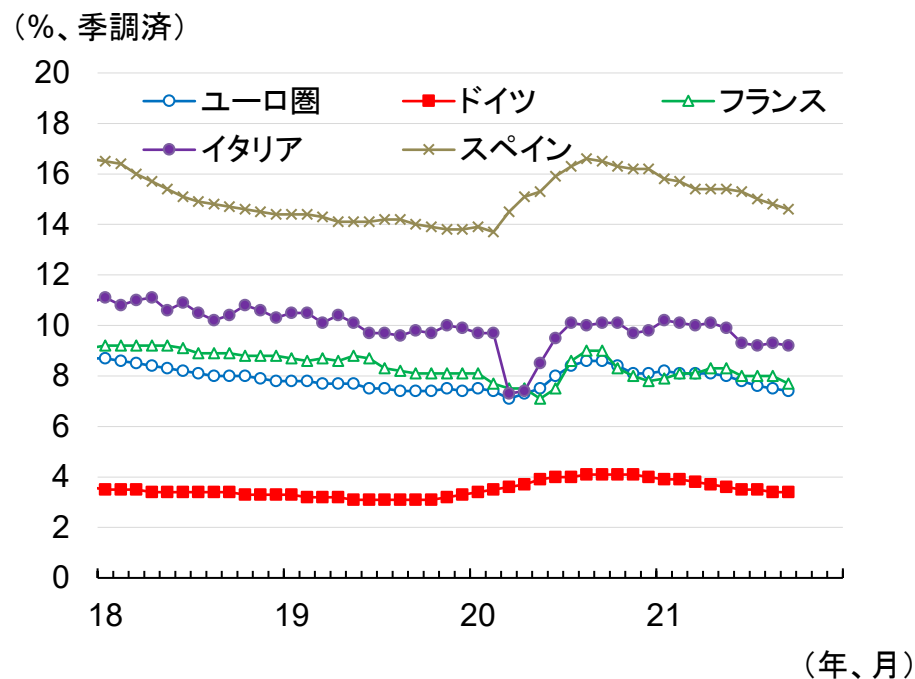
ユーロ圏の9月の雇用統計では、失業率が7.4%と5ヶ月連続で低下、失業者数は前月比25.5万人減と減少幅が再び拡大、雇用は改善している。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツでは下げ止まりの動きもみられる。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

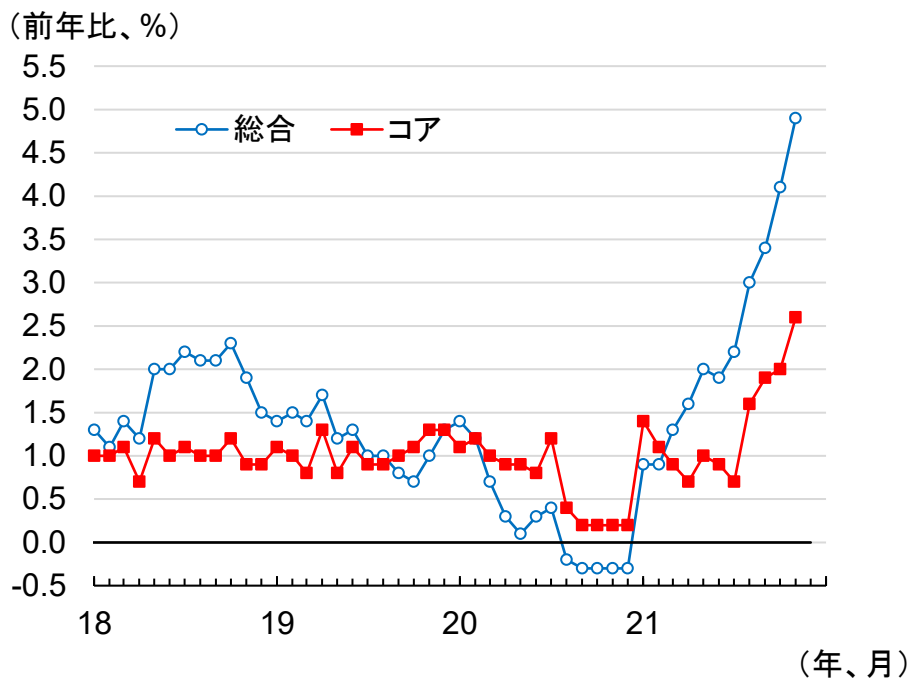


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

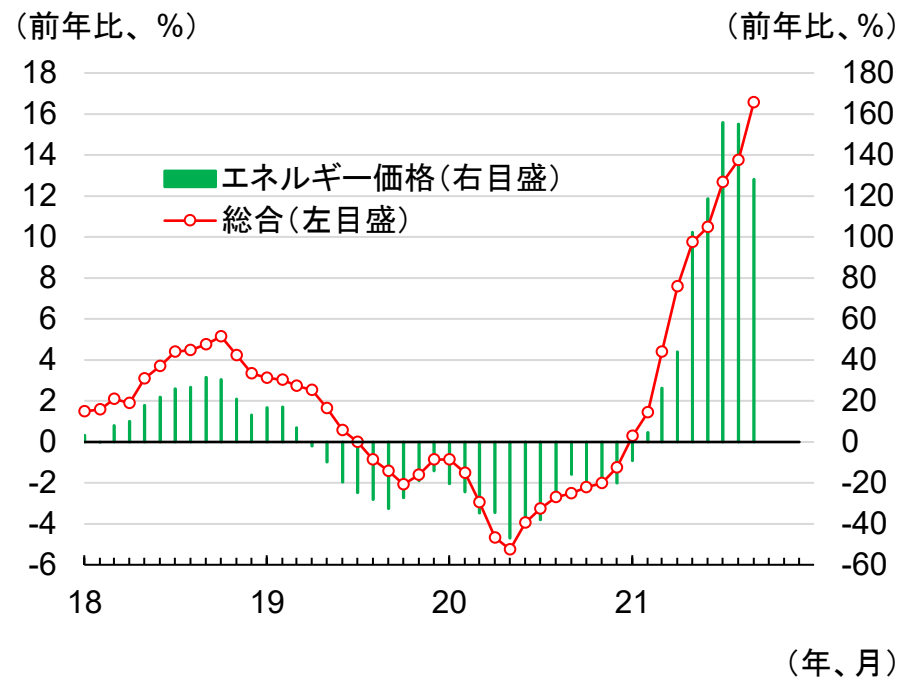
ユーロ圏の11月の消費者物価(速報値)は前年比+4.9%と上昇が一段と加速、11月としては統計開始以来の高水準となった。先行指標である生産者物価は9月時点で前年比+16.6%と、伸び幅の拡大が続いた。うちエネルギー価格は同+128.3%と2ヶ月連続で伸びを鈍化させたが、引き続き高い上昇率である。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ 12月16日のECB理事会に要注目

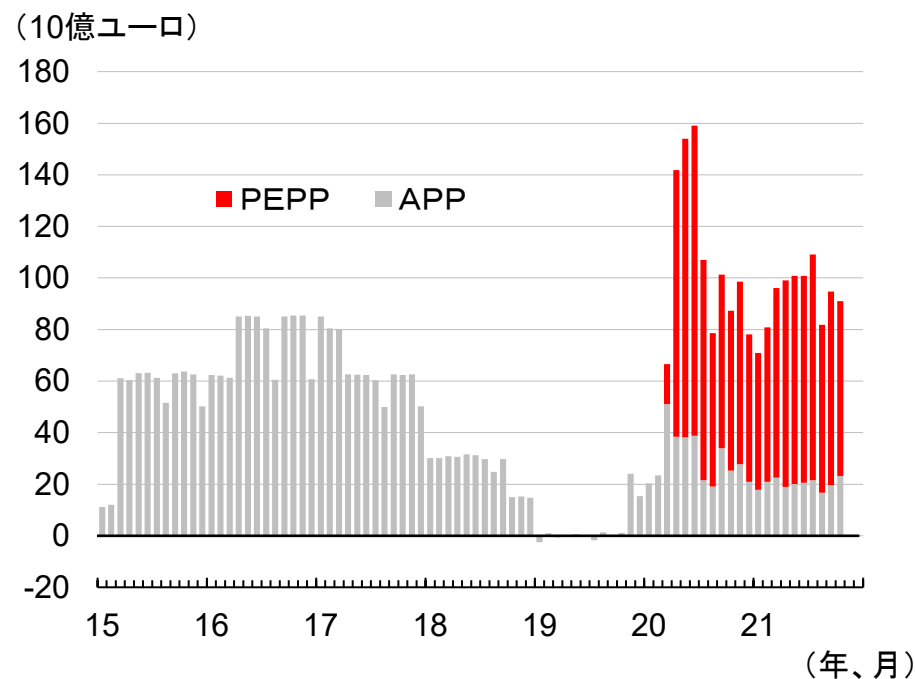
ECBは年内最後となる12月16日の理事会で危機対応策であるパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の終了について議論する。ラガルド総裁は足元のインフレ加速は一時的な現象という見解を堅持。ただ足元の感染再拡大を受けて、ECBの金融緩和の修正スケジュールが後ズレする可能性がある。

ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要	
政策金利の据え置き	主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。
資産購入策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急対応プログラム(PEPP)での資産購入額を5,000億ユーロ増額して総額1兆8,500億ユーロに拡大。また期間を9ヶ月延ばして22年3月まで延長。再投資の期間も少なくとも23年末まで1年延長。 既往の資産購入プログラム(APP)は月額200億ユーロでの購入をオープンエンド型で継続。
資金供給策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急リファイナンスオペ(PETLRO)を21年に4回追加 預金金利(現在▲0.50%)をさらに0.50%ポイント割り引いた水準(現状▲1.00%)で行う期間3年の資金供給策(TLTRO3)は22年6月まで期間延長。

(出所)欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

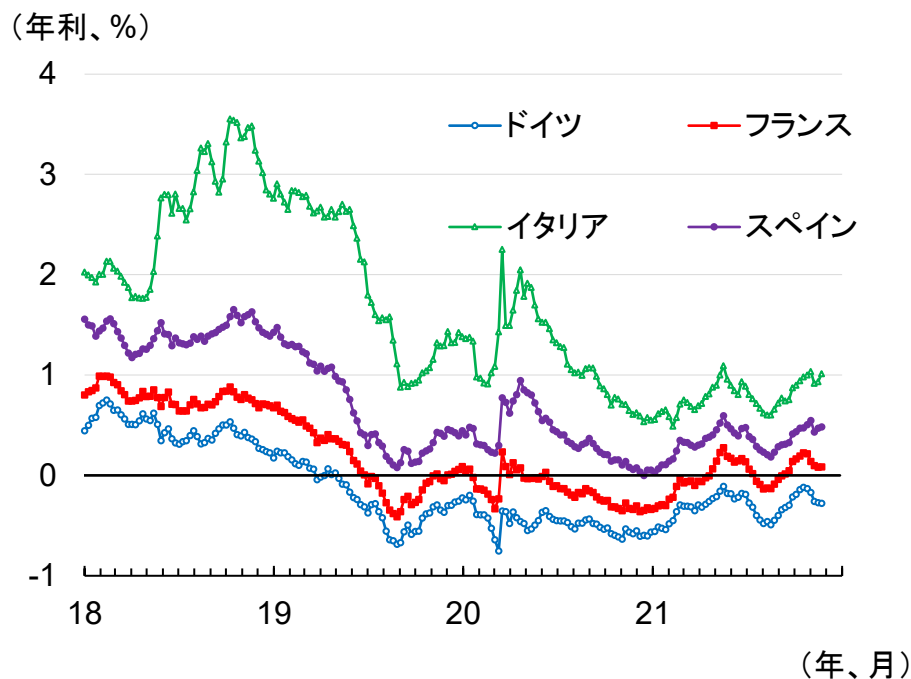


(出所)ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は低下、株価は下落

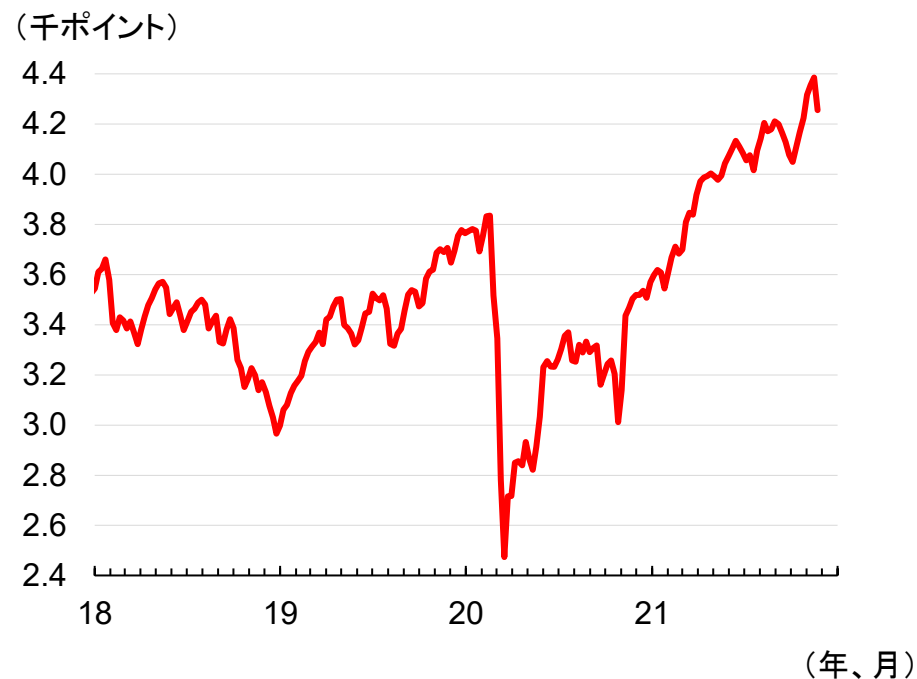
11月のユーロ圏の長期金利は低下した。インフレの加速でECBの金融緩和の動向に注目が集まる一方で、変異株(オミクロン株)の流行に対する懸念などから安全資産である国債に買いが入った。また株価(Eurostoxx50)も下落した。新型コロナウイルスの感染者の拡大に加えて、オミクロン株の流行に対する懸念が相場の重しとなった。

長期金利



(出所)ECB

株価(Eurostoxx50)

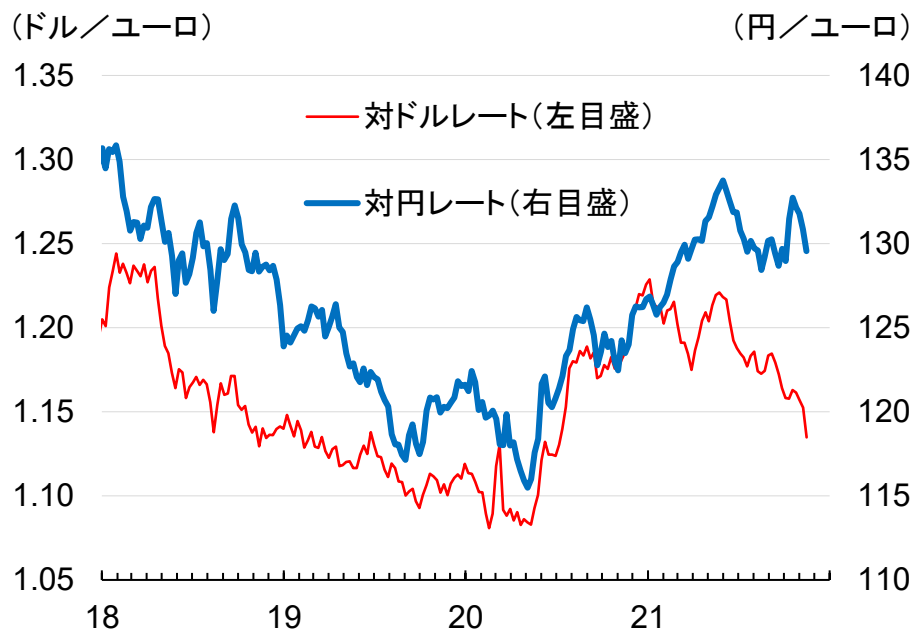


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドル・対円でユーロ安

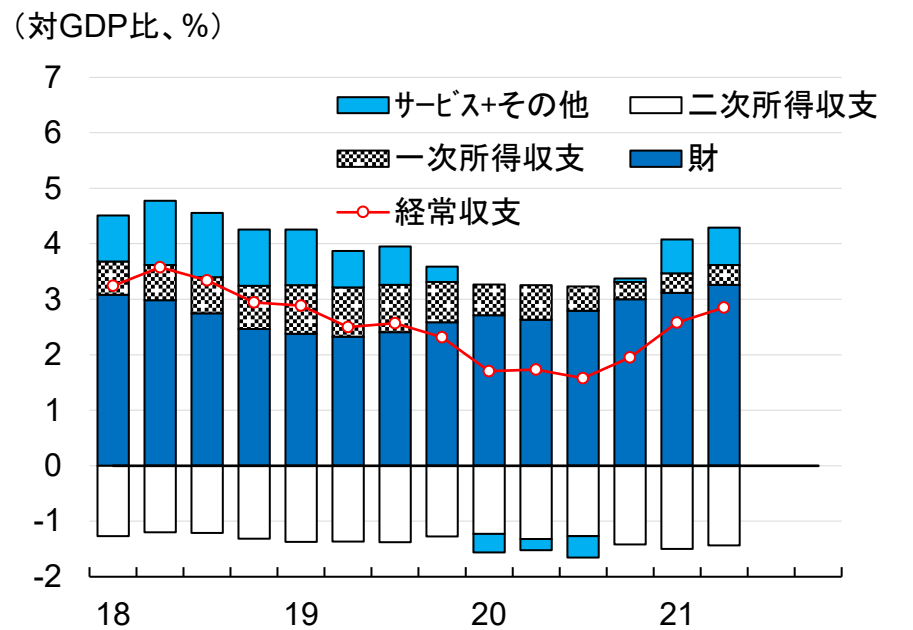
11月のユーロ相場は対ドル・対円でユーロ安となった。新型コロナの感染者の拡大や新たな変異株(オミクロン株)の流行が嫌気される形で、ユーロはドルと円の両方に対して売りが先行した。国際収支は経常収支の黒字が拡大、実需面からのユーロ買い圧力はしっかりしている。

ユーロ相場



(注)週次レート
(出所)ECB

国際収支



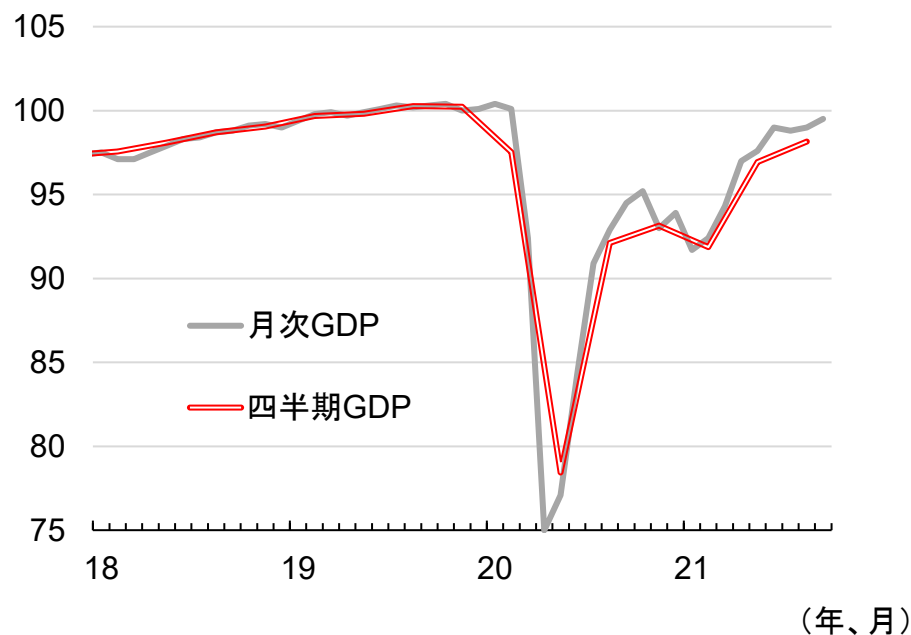
(出所)ECB

英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年7-9月期の実質GDP(速報値)は前期比+1.2%と4-6月期(同+5.5%)から伸びが鈍化した。在庫投資の寄与度が+0.3%ポイントであるため、国内最終需要が前期比+0.9%と4-6月期(同+5.7%)から勢いを失った。最新の9月の月次GDPは前月比+0.5%と8月(同+0.2%)から増勢を強めた。

実質GDP

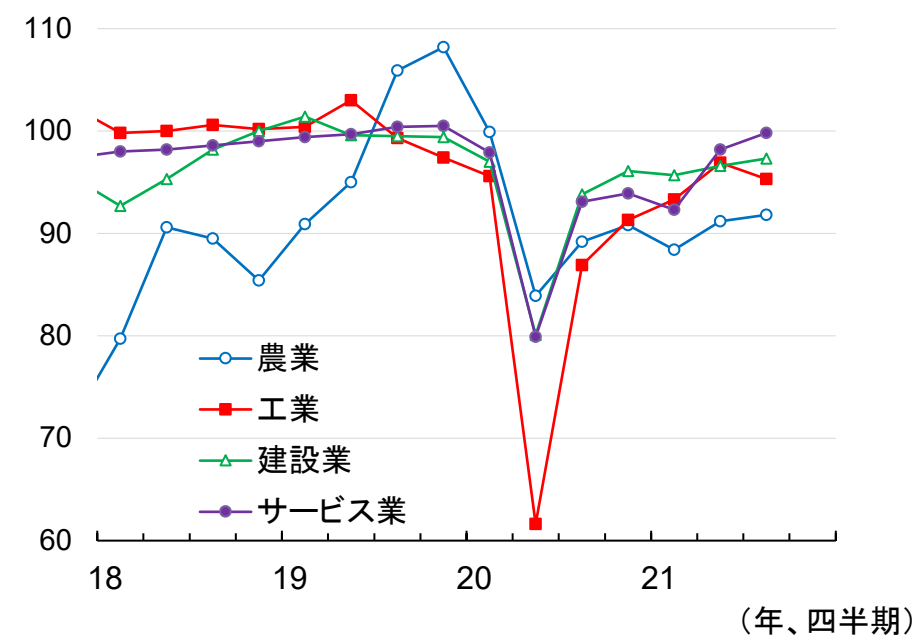
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)

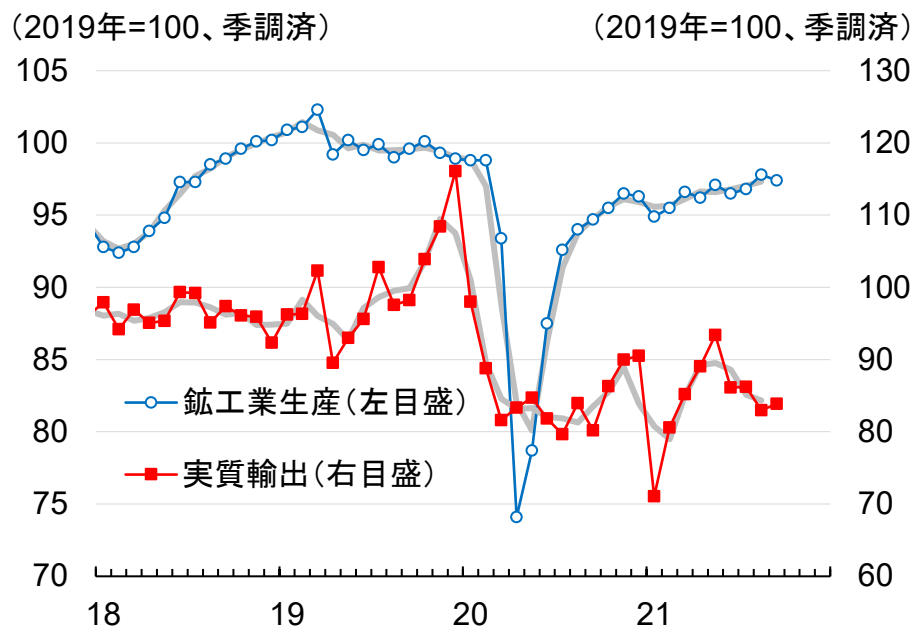


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は回復

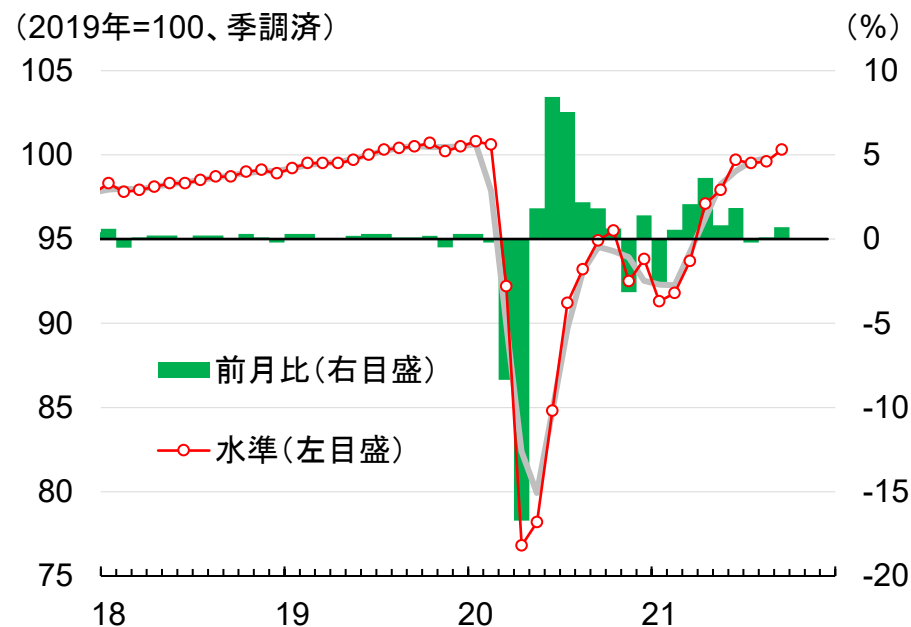
英国の9月の鉱工業生産は前月比-0.4%と再び減少も、均した動きは上向きと回復が続く。反面で、同月の実質輸出は同+1.0%と再び増加したが、均した動きは下向きと低迷している。一方で、9月のサービス生産は前月比+0.7%と8月(同+0.1%)から増勢が加速、均した動きも上向きと回復が続く。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況③ 消費は悪化

英国の10月の小売数量(除く石油)は前月比-0.5%と6ヶ月連続で減少した。物流の停滞に伴うモノ不足の影響が強いと考えられる。また同月の新車販売台数(乗用車)は前年比-24.6%(10.6万台)とマイナス幅が再び縮小したが、前年比2割減程度の減勢が定着している。世界的な半導体不足の影響で新車の供給が停滞している模様。

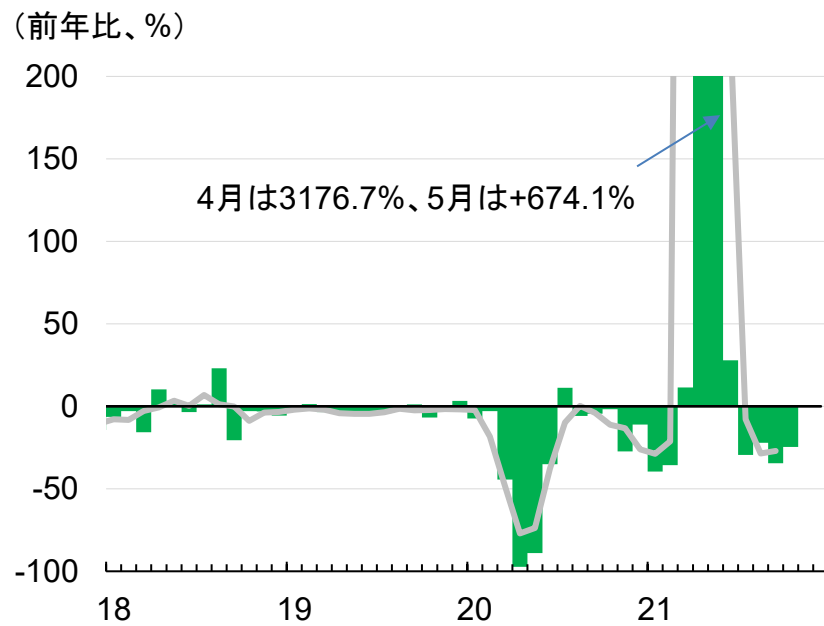
小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

新車販売台数(乗用車)



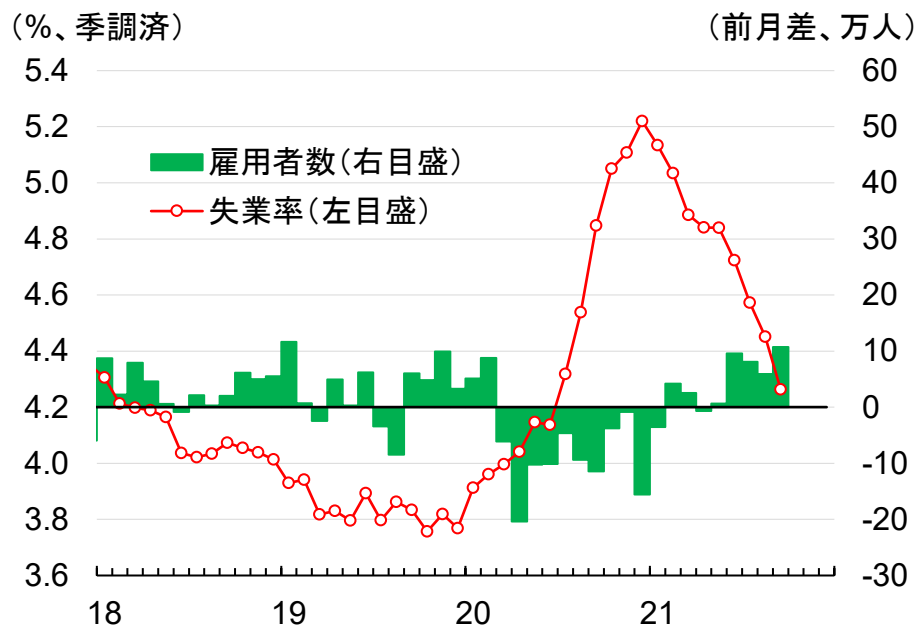
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

英国景気概況④ 雇用は改善

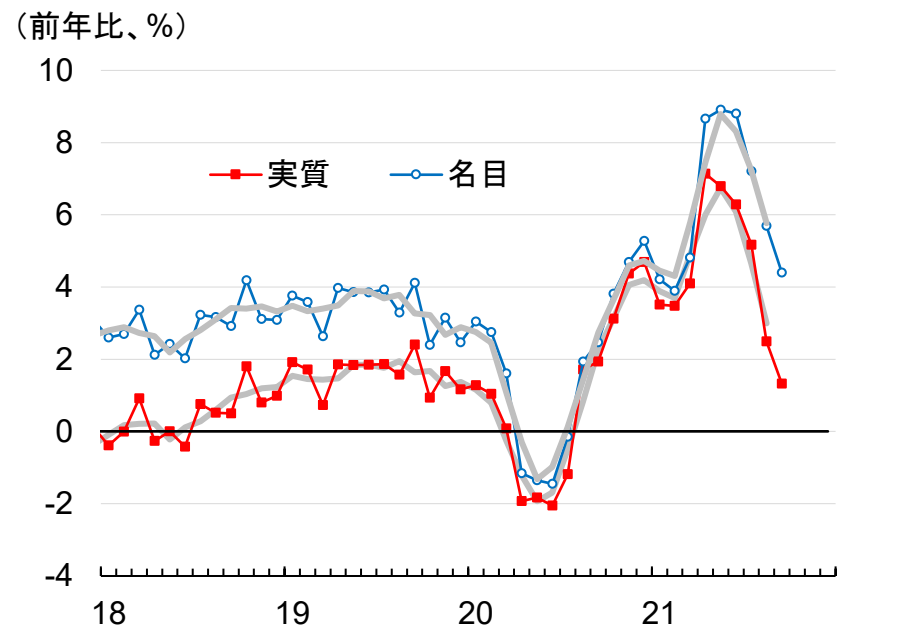
英国の9月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)は、失業率が4.3%に低下、雇用者数も前月比10.8万人増加するなど、雇用は改善している。賃金の騰勢は徐々に落ち着いてきたものの、名目・実質ともに均した増加率は引き続きコロナ前よりも高く、人手不足は依然として解消されていない模様。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値 (出所)ONS

平均賃金(週給)

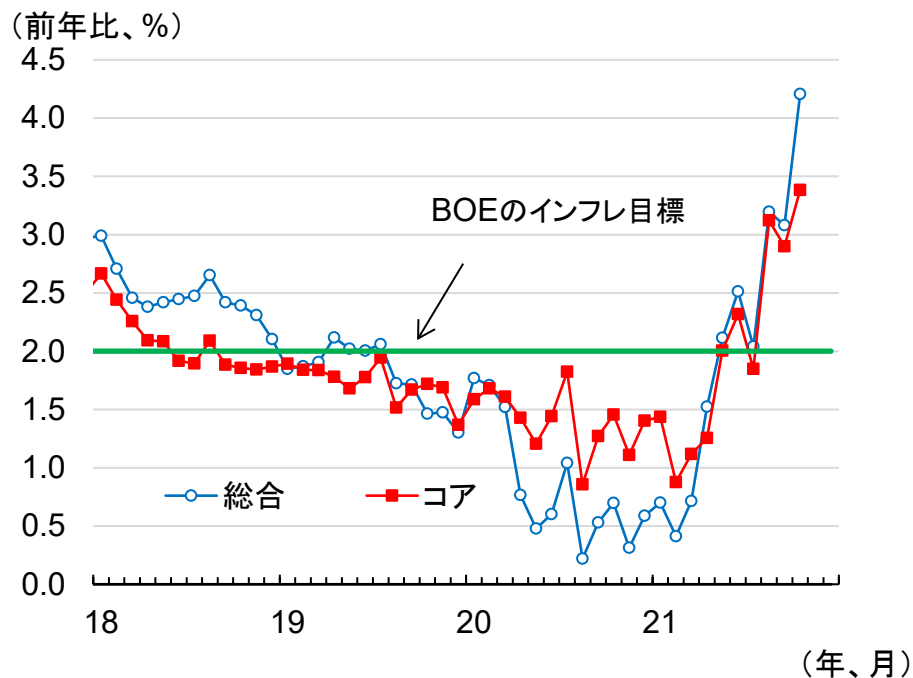


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (出所)ONS

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

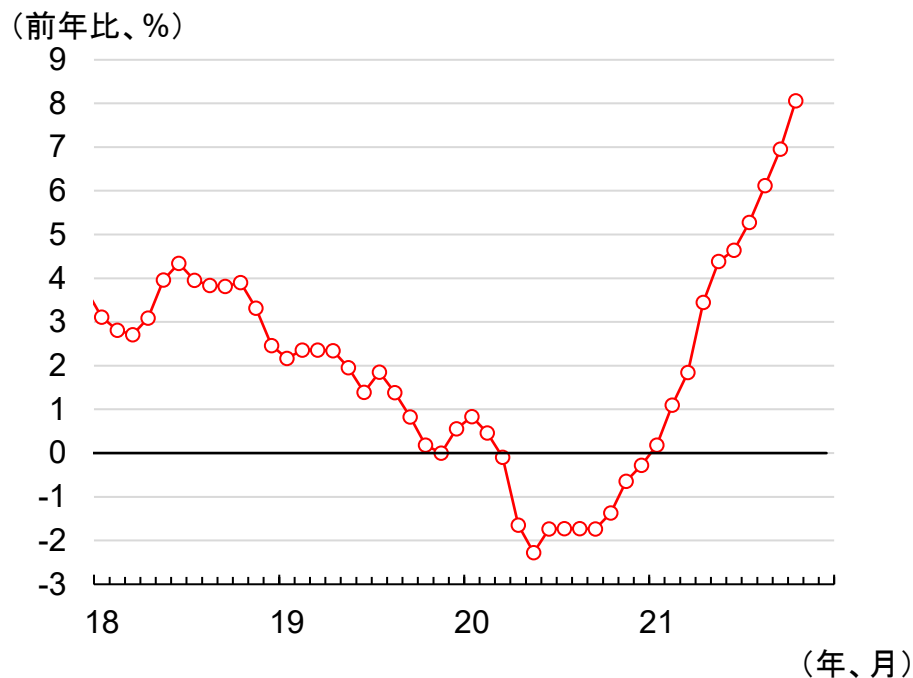
英国の10月の消費者物価は総合指数が前年比+4.2%と伸びが再び加速、イングランド銀行(BOE、中央銀行)のインフレ目標を大きく上回っている。先行指標である生産者物価も10月は前年比+8.1%と伸びが加速、今後もインフレが加速することを窺わせる。ベイリーBOE総裁は市場に対し、必要ならば利上げを行うとの口先介入を強めている。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

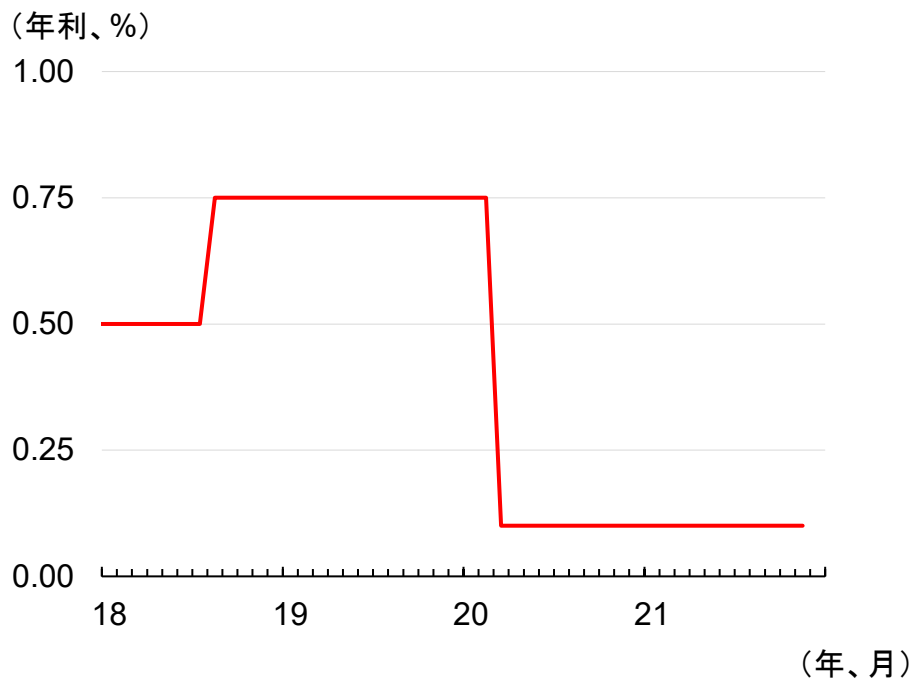


(出所)ONS

英国景気概況⑥ 12月16日のBOE委員会に注目

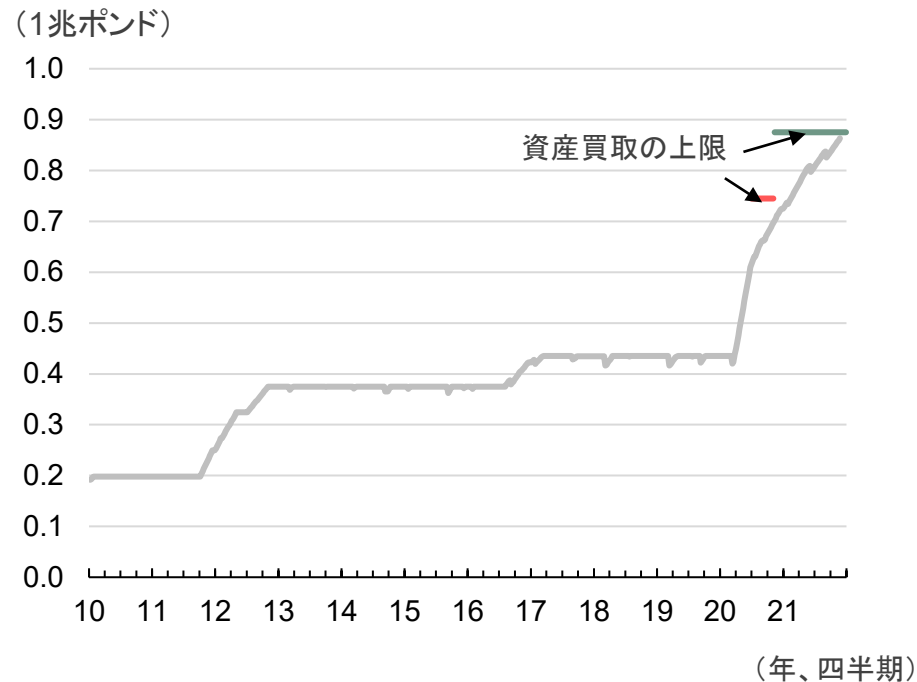
イングランド銀行(BOE)は11月4日の金融政策委員会(MPC)で利上げを見送り、政策金利を年0.1%に据え落した。市場は12月16日のMPCで0.15%程度の利上げが行われると見込んでいるが、足元のオミクロン株の感染の拡大状況次第では、12月のMPCでも利上げは見送られることになるだろう。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

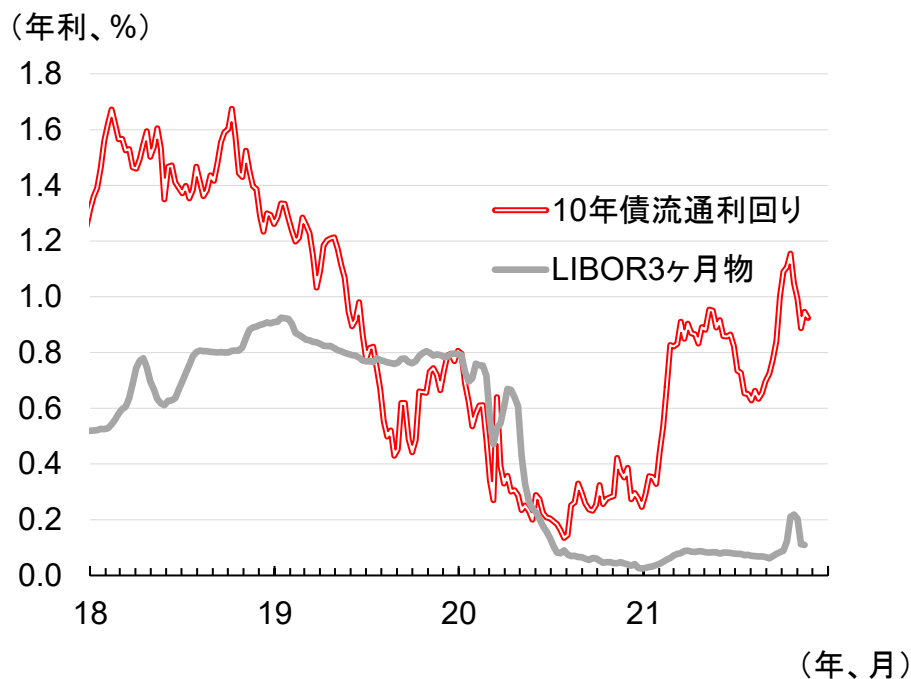


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は低下、株価は下落

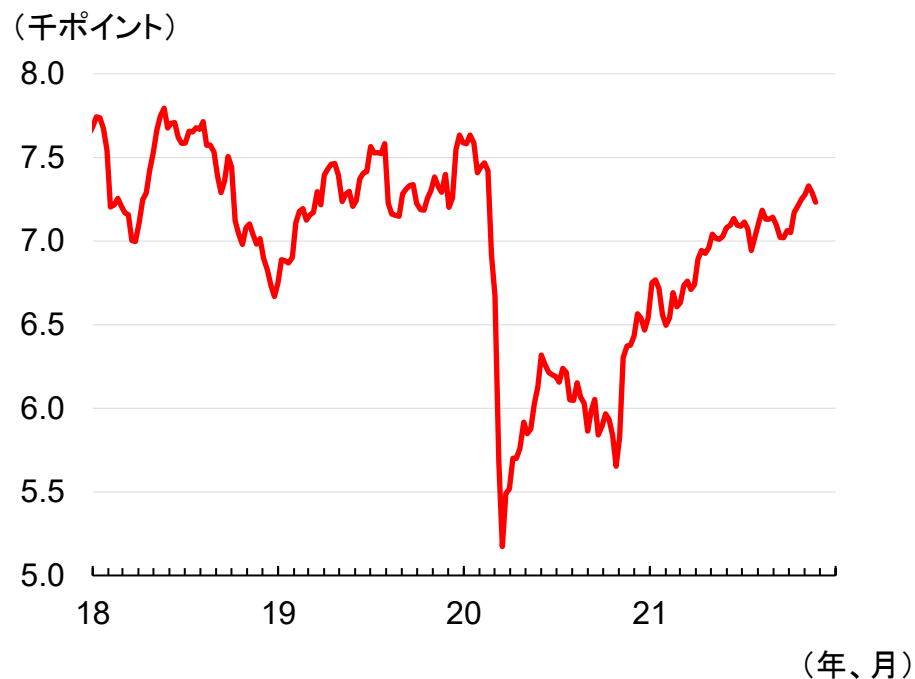
11月の英国の長期金利は低下した。BOEが11月4日の金融政策委員会で市場の予想に反して利上げを行わなかったことや、新型コロナの感染者の増加で投資家の安全志向が高まったことが国債の需要を刺激した。また株価（FT100指数）も下落した。BOEが利上げを回避したことで金融株が売られるなどしたほか、コロナの感染増が嫌気された。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)

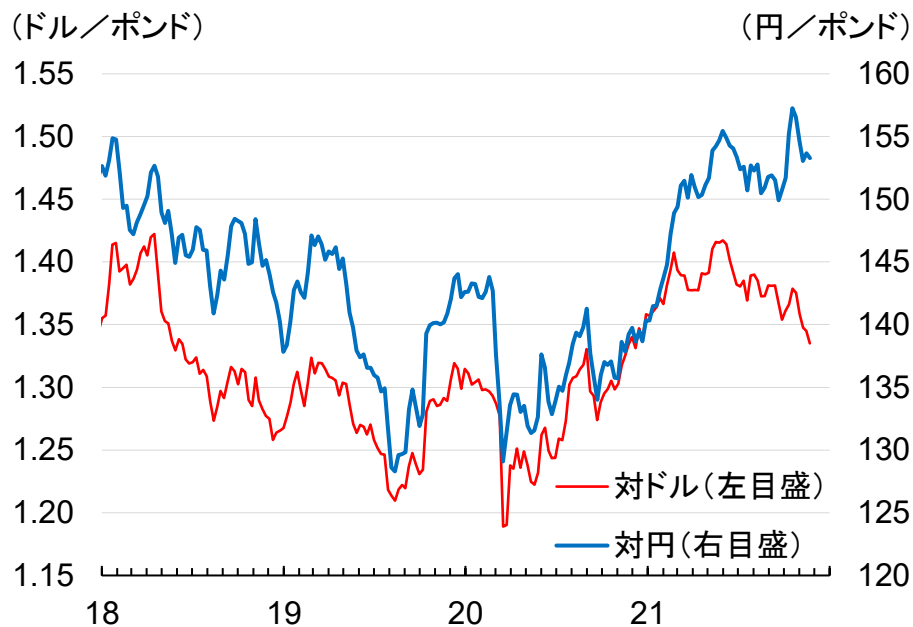


(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドル・対円でポンド安

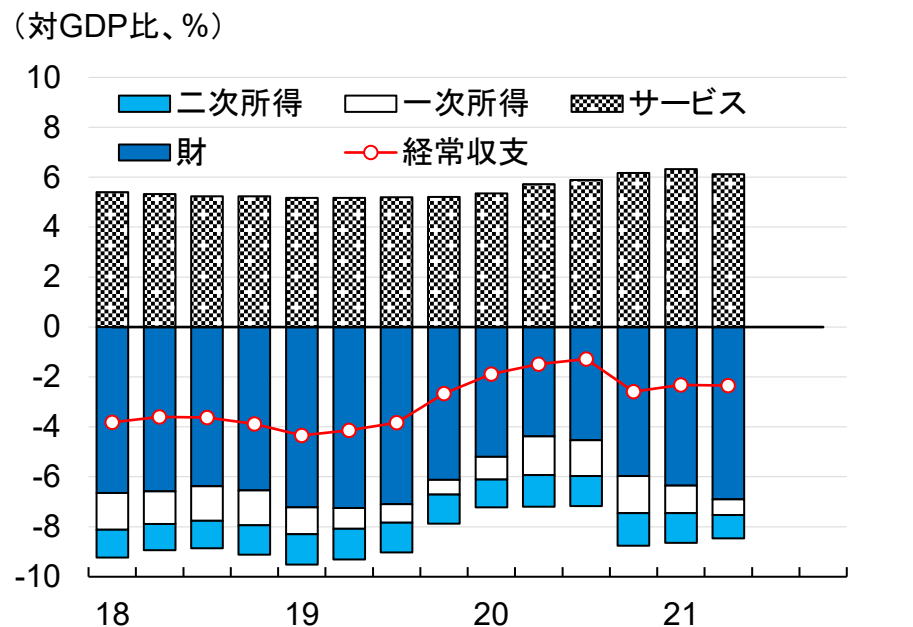
11月のポンド相場は対ドル・対円で下落した。BOEが11月4日の金融政策委員会で市場の予想に反して利上げを行わなかったことや、米連銀(FRB)が資産購入の段階的減額(テーパリング)に着手したこと、新型コロナの感染増で投資家のリスクセンチメントが悪化したことなどが、ポンド相場の重しとなった。

ポンド相場



(注)週次レート
(出所)BOE

国際収支



(出所)ONS

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください